

夏秋系スプレーギク新品種 ‘紀州サマーリンド’ の特性

農業試験場 研究員 井溪 奏一朗

【要約】

夏秋ギク型スプレーギクの県オリジナル品種として‘紀州サマーリンド’を育成した。ピンク色のシングル咲き品種であり、消灯後12~13時間の日長条件とすることで安定して開花する。また、草姿の伸長は非常に良く、切り花の重量も既存の品種と同等以上であることから、高い秀品率が期待できる。

【背景・ねらい】

県内の夏季のスプレーギク栽培で導入されている品種は、茎葉が軟弱、花の日持ちが悪いといった問題から、産地に定着する品種が少ない状況にある。

そこで、①茎・葉が強固、②消灯日から49日程度で開花、③秀品率が高い、④水揚げや花持ちが良い、⑤12~13時間日長で開花揃いが良いことを目標に育種に取り組んだ。

【成果の内容・特徴】

1) 開花特性

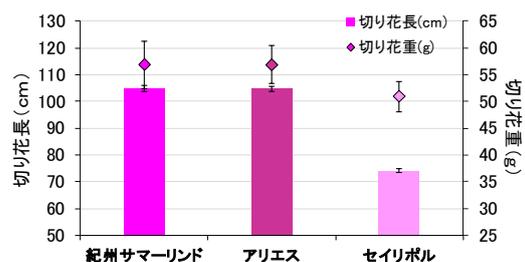
シングル咲きの品種で、花色は明るいピンク色（図1）。スプレーフォーメーション（花房の形）は側花と比べて頂花が突出する形になっている。消灯後12~13時間の日長条件とすることで、消灯日から45~50日程度で安定して開花する。



図1 ‘紀州サマーリンド’ 開花時の外観

2) 切り花品質

生育初期からよく伸長し、収穫時の草丈は安定して出荷規格2Lの基準80cmを超える。切り花重は慣行品種と同等以上である（図2）。茎は中が充実して固い。葉は濃い緑色で斜上して着葉し、比較的小さく固さがある。

図2 ‘紀州サマーリンド’の切り花長・切り花重
エラーバーは標準誤差を示す

3) 水揚げ、日持ち性

収穫後の切り花の吸水力は強く、輸送後の水揚げ不良は起こりにくい。鑑賞期間中に花卉の傷みや脱落は起こりにくく、2~3週間程度の日持ち性が見込まれる（図3）。

図3 ‘紀州サマーリンド’
日持ち試験中の外観変化
25℃一定の恒温槽で実施